

〔目的〕和服の寸法は経験的に定められたものが多く、且つ教科書によって異なるので教育指導上不都合なことがある。私達は大裁長着の衿の縫製について教育的見地から縫製が容易で理解しやすい方法を見出すために研究を続けてきた。今回は衿肩明と繰越寸法を着装時の好みに従って頸囲り寸法から割出し、衿の標付けを布の伸びと厚さなどの素材の性質と人体の曲線長(体型)に基づいて行う方法を考案する。

〔方法〕採寸方法：着装時における衿付線の頸椎点からの下り寸法( $d_1$ )と頸付根点からの離れ寸法( $d_2$ )とを指定する。材料の経布目を背面正中線に合わせ体表に布を沿わせて頸付根点に標を付け肩山線に沿って $d_1$ の点(P)に標を付ける。布を平面上に置きP点からその経布目に下した垂線の足を $P_2$ とする。 $(\overline{P_1P_2} + d_1)$ 寸法を上り繰越寸法( $l_1$ )に、 $\overline{AP_2}$ を上り衿肩明寸法( $l_0$ )とする。標付け：衿型を定め $l_0$ 、 $l_1$ を基準寸法にして型紙を製作する<sup>1)</sup>。型紙の衿付線上に数点の合標点を付ける。衿の標付けは型紙線上の衿付け寸法と出来上り衿厚さを考慮した衿付け線長さとの差、および各標付け間の身頃の伸びをゆるみ分として合標をつける。

〔結果〕1. 衿肩明と繰越の採寸方法を提案した。2. これらの寸法と好みの衿型(標準型V型、U型)を採用することにより衿付線を規定できる。3. 衿付け時のゆるみ寸法を生地の性質と曲線長から算出する。4. 合標を身頃と衿の数ヶ所に付けるので衿付けの釣合いをとるのが容易である。以上の採寸法によれば各寸法の意味づけがなされ教育上好ましく更に希望する衿付線の作図、縫製が可能である。1) 神田、本田、木下;家政誌26, 501 (1975)